

深海にすむ怪物

「キメラ」

これはまた、なんとも奇妙な魚、ギンザメの登場です。想像上の生き物？ いえいえ、グラバー図譜に描かれているからには、実在するんでしょう。長崎大学水産・環境科学総合研究科教授の山口敦子先生に解説していただきます。

「ギンザメは、ギンザメ目ギンザメ科ギンザメ属に属し、日本周辺のやや深い海に広く分布する軟骨魚類の仲間です。全長は最大で一メートルを超えます。まずは、銀灰色の体と緑色の大きな眼、独特の姿が印象的なギンザメの外見に注目してください。溝状に発達した側線が、大小の金属の継ぎはぎで作られたかのような大きな頭部に続き、大きな胸鰭と一本の鋭い毒棘を備えた背鰭、尾部に向かって体は次第に細くなっています。ギンザメ属をあらわす *Chimaera* とは、ギリシャ神話に登場する伝説の怪物「キメラ(キメラ)」に由来します。キメラとはライオンの頭部、ヤギの胴体、そして蛇の尾をもつ雌の怪物で、口から炎を吐き、すさまじい怪力で人々を襲ったとされます。種小名につけられた *phantasma* には、同じくギリシャ語で幽霊、幻といった意味があります。英語で *ghost fish* と呼ばれる所以です」。

以上前の古生代デボン紀に出現したものと考えられています。それは、恐竜が繁栄した中生代よりずっと前のこと、多種多様な魚が出現した「魚類の時代」です」。

四億年前の魚類の時代……想像するとわくわくしますね。

「その頃には、既にギンザメ類はサメ類と分岐し、それぞれ別々の進化の道のりを歩んできたものとみなされています。ギンザメ類の多くは中生代までに絶滅したとみられ、現在では世界に四十種程度、日本には十種が知られているにすぎません。しかし、研究が進めば、新たな種の存在が明らかになる可能性が高いと考えられています。ギンザメは、生きた化石と呼ばれるシーラカンス等と同様、原始魚類の遺存種としても貴重な生物なのです」。

「ギンザメは東シナ海や黄海でも漁獲され、長崎ではフカの湯引きの代用として『ギンブカ』の名でスーパーに並ぶこともあります」。

なんとーじゃあ私たちも食べているのかもしれないね。

「でも一九九〇年以降、ギンザメの漁獲量の減少が心配されています。グラバー図譜のモデルとなった標本

謎に包まれたギンザメの生態

「でもギンザメを真正面から見ると、口からはみ出した癒合歯がウサギの前歯のようで、とても愛嬌があります。ギンザメ類を総称して Rabbit fish や Rabbit fish と呼ぶのは、ウサギやネズミの歯によく似ているからです。ギンザメは下顎に一对、上顎に二対ある歯板を使い、カニやエビなどの小さな甲殻類を押し潰して食べています。速く泳ぐのは苦手なようで、大きな胸鰭をゆつくりと羽ばたかせながら、まるで空を飛んでいるかのよう、暗い深海の海底近くを優雅に泳ぐ姿は息をのむほど幻想的です」。

ふーむ。ちょっと見てみたくなりました」。

確かに、怪物や幽霊と名付けたくなりません

「でもギンザメを真正面から見ると、口からはみ出した癒合歯がウサギの前歯のようで、とても愛嬌があります。ギンザメ類を総称して Rabbit fish や Rabbit fish と呼ぶのは、ウサギやネズミの歯によく似ているからです。ギンザメは下顎に一对、上顎に二対ある歯板を使い、カニやエビなどの小さな甲殻類を押し潰して食べています。速く泳ぐのは苦手なようで、大きな胸鰭をゆつくりと羽ばたかせながら、まるで空を飛んでいるかのよう、暗い深海の海底近くを優雅に泳ぐ姿は息をのむほど幻想的です」。

ふーむ。ちょっと見てみたくなりました」。

デボン紀に栄えた原始魚類の遺存種

「ギンザメは、正確にはサメの仲間ではありません。同じ軟骨魚類ではありますが、ギンザメ類は全頭類、サメ・エイ類は板鰓類に分類されます。板状の五〜七対の鰓がそのまま外部に開口しているサメ・エイ類とは違い、ギンザメでは四対の鰓が一枚の鰓蓋(鰓ぶたのこと)に覆われることが大きな違いで、この点はむしろ硬骨魚類によく似ています。軟骨魚類は、今から遙か遡ること四億年

は、当時、長崎に水揚げされた雌のギンザメだったようです。雄は交尾の際に、腹鰭に備わる一对の交接器で雌に精子を受け渡します。さらに、ギンザメの雄には頭部前額部の前方にもう一本の特殊な交接器が備わっています。ギンザメ類だけがもつその交接器は、性成熟にもなっても発達してくる鉤状の軟骨突起で、先端には鋭い棘が密生しています。交尾の際に雌を刺激したり、雌に体を巻き付け、固定するためにあると考えられています。交尾を終えたギンザメの雌は、長さ二十センチくらいの長楕円形の卵殻に包まれた卵を海底に産み落とします。繁殖期は冬を中心に半年に及ぶとも言われますが、詳しい繁殖期や寿命など、その生態の多くは謎に包まれたままです。研究の難しい種ですが、この貴重で興味深い生物の生態を、少しずつ解き明かしていきたいものです」。

見た目も生態も謎だらけで、はるか昔から存在していたギンザメ。じつと見ていると、今夜の夢の中に、ゆらゆら泳いで出てくるかもしれませんよ。



Glover Atlas

ギンザメ

Chimaera phantasma
画家 萩原魚仙

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern & Western Japan



解説 山口敦子
長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たちー有明海の豊かさの危機」(東海大学出版)など。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>